



寺紋
 ひいらぎ 柎 かこみ 沢瀉
 おもだか おもだか
 (通称 大関沢瀉)

大雄寺報

＝ 第 16 号 ＝

平成 29 年 1 月 1 日 発行

発行所 黒羽山 大雄寺

〒 324-0233

栃木県大田原市黒羽田町 4 5 0

TEL 0287-54-0332

FAX 0287-54-0330

編集発行人：住職 倉澤 良裕

印刷所：タキザワ印刷



坐 禅



花と禅 (演奏会)



あじさい茶会



てらスクール

***** 目 次 *****

調査実施の報告について	2～3 頁	あじさい茶会・大雄寺の坐禅堂	6 頁
てらスクール	4 頁	しつもん箱(坐禅って何?)	7 頁
花 と 禅	5 頁	平成29年の主な行事	8 頁

栃木県指定文化財「大雄寺の建造物」 調査実施の報告について 住職 倉澤 良裕

大雄寺本堂、庫裡、禅堂、廻廊、総門、経蔵等の建造物の調査の経過と今後の方向についてお知らせいたします。

江戸時代は、黒羽藩主大関氏菩提寺として、その庇護のもとで維持発展を遂げてきましたが、明治廃藩後、大関氏の庇護を離れることとなり、明治から大正時代にかけて伽藍の維持に困難をきたしておりましたが、伽藍維持の方策として、大正初めに「財団法人保護会」を設立し、檀信徒や信者の寄付行為をもって修復を加えながら改造なく維持、保存にあたってきました。

明治元年から平成二十八年までの百五十年間の大雄寺歴代住職の在位は、次の通りですが、私から数えて五代前まで遡り、第三十二世大智慧哉和尚（慶応二年〜明治二年）、第三十三世鷺山天霊和尚（明治三年〜明治三十四年）、三十四世真龍霊湛和尚（明治三十五年〜昭和八年）、三十五世真巖英龍和尚（昭和九年〜昭和四十年）、第三十六世徹巖良一和尚（昭和四十年〜平成二年）と継承してまいりました。私は、平成三年から継承し、今年で住職歴二十七年になります。

昭和の戦前、戦中は荒廃しながらも当時の姿を維持しながら守ってきました。

戦後の厳しい時代を乗り越え、昭和四十二年本堂等の建造物調査を経て、栃木県指定文化財と認められ、建造物の保存修理事業が開始されました。まず、坐禅堂の解体保存修理に着手し、引き続き、経蔵、本堂、廻廊、庫裡、鐘楼、御霊屋、玄関などすべての保存修理を文化財補助事業として実施してまいりました。これらの建造物保存修理事業（約三十年間）は、平成四年まで続き、第三十六世徹巖良一和尚の代でありました。

その後も二十年から二十五年間ごとにそれぞれの建造物の茅屋根葺き替え工事が行われてきました。維持と保存には檀信徒各位様のご理解と多大なるご協力を賜り、今の姿を維持しているところであります。

この度、貴重な文化遺産である大雄寺建造物を維持し、保存して次世代へ伝えていくため、総合的かつ本格的に調査の必要性を考え、建造物の調査を実施いたしました。

平成十九年から三年間にわたり、筑波大学及び工学院大学による建造物調査、栃木県立博物館による歴史資料の調査を実施しましたが、平成二十六年三月、予期せぬ事故のため一時中断、平成二十七年十一月に調査の継続が決

定し、平成二十八年十月に待望の「大雄寺建造物調査報告書」が完成する運びとなりました。

この調査報告書は、大田原市、栃木県そして、関係機関に提出し、文化庁における国の文化財審議委員会に図られることとなり、審査の資料になることとなります。

国重文指定への望みをもって静かに待ちたいと考えているところであります。

左記の資料は、大雄寺発行の調査報告書「大雄寺の建築とその歴史的環境」（栃木県指定有形文化財建造物 大雄寺本堂ほか建造物調査報告書）より抜粋したものであります。

●調査の背景と目的

大雄寺経蔵は昭和四十二年十二月二十二日付で、本堂ほか六棟は昭和四十四年二月四日付でそれぞれ栃木県の有形文化財（建造物）に指定された。長く伝承されてきたように応永十一年創建、文安五年再興、天正四年移転という変遷において、本堂は文安の建築で、天正に移築されたと考えられてきた。

その後、文化庁は昭和五十二年度より近世社寺建築緊急調査を全国の都道府県単位で実施し、これにより近世建築に関する研究が一段と進展した。

大雄寺の諸建築は、昭和五十二年度に行われた栃木県近世社寺建築緊急調査で調査された。『栃木県近世社寺建

築緊急調査書』（昭和五十三年三月刊）

では、大雄寺の本堂、御霊屋、鐘楼、座禅堂、庫裏、総門、廻廊、玄関、経蔵が取り上げ、造営年代は、天正四年現在地に移された時と云われるが証拠はなく、様式的には江戸時代の建築と考えられる。多くの文書を伝えることであるから、それらを調査することによって造営年代を確定することが出来るかもしれない。と記している。栃木県の調査は全国的な近世社寺緊急調査の先駆であって、調査期間も単年度であった。近世社寺建築の様々な特性にかかる蓄積がほとんどない段階だったため、個々の建築年代の詳細な判定については、将来の調査に委ねたかたちになっている。

それでも、報告書ではこれら全体について、つぎのように評価していた。大雄寺は個々の建物が優雅な姿をみせるだけでなく、伽藍が整い、又墓地には慶長以降（一六〇〇年頃）の多くの墓を見ることが出来、自然の景観と共に伝えていて貴重である。

また文化庁では、昭和五十四年度より近世社寺建築重要遺構調査を実施した。この重要遺構調査は、各都道府県で実施した「近世社寺緊急調査」で重要性が認められた社寺建築及びその保存対策の策定に必要な建造物を対象とするもので、大雄寺はこのような評価があったことから、東京工業大学の平井聖・吉田純一が「大雄寺と曹洞宗伽藍について」として、昭和五十四年度に調査研究を行った。その成果は、文

化庁に保管されているが、刊行物にはなっていない。

大雄寺本堂等は栃木県の文化財指定以降にこうした調査があったが、その後は茅葺屋根の葺き替えや部分修理など、維持的な保存修理工事を行い、現在に至ってきた。緊急を要する甚大な破損がみられないものの、経年で軸組全体が弛緩してきている状態にあり、近い将来には抜本的な保存修理工事を行う必要があった。

大雄寺では将来の保存に向けて何らかの措置を講じる必要性を認識し、平成十八年十一月に「栃木県文化財指定大雄寺建造物（本堂、禅堂、庫裏、総門、廻廊、鐘楼、御霊屋、経蔵）の国重要文化財指定に伴う調査実施の要望について」という要望書を大田原市教育委員会に提出した。これを契機に大雄寺、大田原市、栃木県の関係者で協議し、大雄寺が独自の調査研究を行うこととなった。

そこで調査研究の目的は、大雄寺の建築について、建設の経緯、各建物の特徴等を明らかにし、文化財であるこれらの建造物の今後の保護の向上に資することとした。その上で伽藍の構成する各建物の実測及び仕様等の調査、解体を伴わない目視による痕跡等調査、寺蔵文書を中心とする史料調査を実施した。また大雄寺が旧黒羽城の一角に位置し、良好な歴史的風致を残していることで、墓所や隣接する黒羽城趾についての基礎的な調査も行うこととした。

調査研究の依頼先は、かつて東京工業大学の大雄寺調査に参加したこともある筑波大学大学院世界遺産学専攻の大和智教授を中心に、関係する専門家を含めて調整することとなった。なお平成十九年五月には文化庁文化財部の武内正和文化財調査官の視察があり、これより平成十九・二十年で調査を行うこととなった。

● 調査の体制と経過

方針は、大雄寺本堂等の現況を記録するとともに、部材や痕跡、歴史資料を調査し、その文化財価値を再検討することとした。

調査員及び調査協力者はつぎの通りである（所属等は調査当時）。

一部省略

各回の現地調査の概略は以上の通りであるが、このほかに歴史資料の整理と分析については栃木県立博物館の船木明夫が必要に応じて調査を行った。図面の作成にあたって、筑波大学大学院生が補充調査を行った。

大雄寺の調査はほぼ順調に進んだが、二年目に入った平成二十年四月に、調査の中心であった大和氏が文化庁へ異動となった。大和氏は文化庁文化財部参事官に就任して全国の文化財建造物の保存を総括することとなったが、激務のなかで追加調査も行った。その後、大和氏は調査報告書の取りまとめに苦心していたが、同二十三年四月か

らは文化財鑑査官となり、さらなる激務と多忙のため、調査報告書の執筆になかなか時間が持てない状態となってしまった。

この間の平成二十三年三月に発生した東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸を中心に、東日本の広域で文化財建造物が被災した。

大雄寺も本堂が屋根や軸部が部分的に破損、経蔵は土蔵造の外壁が損傷した。大震災からの文化財の復旧は多様に進められたが、大雄寺も文化庁が実施した文化財ドクター事業の指導を受けながら、栃木県災害復旧事業の一環で修理された。震災からの文化財の復旧にも大和氏は文化財鑑査官という第一人者の立場で尽力した。

そして平成二十六年三月二十一日、大和氏が不慮の事故で世界杯で文化庁を定年退官し、ようやく自らが抱えていた仕事に手と目を向けようとしていた矢先のことであった。

このままでは大雄寺

の調査報告が宙に浮いてしまいそうな状況に陥ったが、幸いにも大和氏のコンピューターに調査報告書の草稿が残されていた。ただし、大和氏も大いに手を加えるつもりであったため、必ずしも完備した内容になっていないところもあったが、それらをもとに編集したのがこの報告書である。





毎年、夏休みに開校している「大雄寺てらスクール」も十一回目となりました。口コミで知られるようになり、今では半年前から問合せが来るほど、人気の活動になりました。

昨年も小学生と一緒に坐禅、作務(清掃)、食事作法のほか、写経、お守り作りや竹筒炊飯をして過ごしました。食事や掃除などいつもと変わらない生活も態度を変えれば見える景色は変わります。姿勢を正し、一言も話すことなくまると頂く食事、綺麗や汚いから離れ、一生懸命行う掃除は心も体も



坐 禅

まると「いま」に焦点が合わせてくれます。

大雄寺で過ごした時間がこれからも子供たちの記憶に残り、心身健やかに成長する助けとなる事を願い、てらスクールは無事閉校となりました。

最後に坐禅会をはじめ、ボランティアの方や食材をご寄進くださった檀信徒の皆様など多くの方々にご協力いただき、てらスクールを開校することが出来ました。改めて御礼申し上げます。



写 経



作 務



食 事



竹筒炊飯

花と禅

平成28年5月5日

五月五日（こどもの日）の大雄寺はハンカチの木に光が差して花びらがひらひらと風に揺られていました。木を取り囲むように白、ピンク、黄、紫、赤色の牡丹の花が境内を彩ってくれていました。年に一度、大雄寺を楽しんで頂こうと、伽藍をすべて使用した催し物「花と禅」が開催されております。境内では「演奏会」、「坐禅」、「ヨガ」、「拝観」の無料体験がおこなわれ、大盛況で終わることができました。本堂で行われたギターとバイオリンの演奏は空で歌うトビの声もあり、和やかで非常に優雅な演奏会となりました。ま



演奏会

た、昨年の「坐禅」は禅堂に入りきれないほど多くの方が訪れておりました。自然・芸術・宗教・文化・歴史が詰まった一日は日々の忙しさから立ち止まり、心に栄養をくれる貴重な一日となりました。

花と禅

—初夏の風に遊ぶ—

黒羽の大雄寺で初夏の一日、ギターとバイオリン演奏、坐禅、ヨガ、拝観で楽しい時間をお過ごしください

開催日 平成28年5月5日（木曜、子供の日）
参加費 無料

ギターとバイオリン演奏
第1回 11:00 ~ 11:30
第2回 13:00 ~ 13:30
曲目 壁の横顔 オーバー・ザ・レインボー
365日の紙飛行機 にじいろ
花は咲く アルハンブラの思い出
ポール・ニュー・ワールド

坐禅 第1回 10:15 ~ 10:45
第2回 13:45 ~ 14:15
ヨガ 11:30 ~ 12:30
拝観 10:00 ~ 15:00

演奏者プロフィール
渡邊洋邦（ギター）
札幌学院大学音楽学部音楽学科ギター専攻を卒業。第11回クラシックギターオーケストラコンクール全国大会第1位、第8回ワルヴェルディ音楽文化祭賞状特別オーディション合格、プロデューサー賞受賞。富田雄代、海田美子、多岐高志、久保田巧、津川宣世、久保陽子、ピエール・アモワイヤ等の専任講師。

渡邊弘子（バイオリン）
東京芸術大学音楽学部附属音楽高校を経て、同大学音楽科卒業。第8回日本クラシック音楽コンクール全国大会第1位、第8回ワルヴェルディ音楽文化祭賞状特別オーディション合格、プロデューサー賞受賞。富田雄代、海田美子、多岐高志、久保田巧、津川宣世、久保陽子、ピエール・アモワイヤ等の専任講師。

会場 黒羽山 大雄寺（大田原市黒羽田町450番地）
TEL 0287-54-0332
URL: <http://www.daiouji.or.jp>
email: daiouji@helen.ocn.ne.jp



坐禅



ヨガ



境内



ハンカチの木と本堂

大雄寺あじさい茶会

平成28年6月26日

昨年「くろばね紫陽花まつり」も県内外から多くの方がおいでになり、賑わっておいりました。黒羽が渋滞する日はなかなか見ることがありませんが、この期間はお寺の駐車場だけでなく、公園前の駐車場も満車になるほど人が訪れます。

そんな中、大雄寺では四回目となるあじさい茶会を開催いたしました。大雄寺の茶室と大広間を使用し、東京からおいで頂いた社中の皆様にお茶をたてていただきました。有難いことに毎年おいで頂く方もいらっしや、年々人数も増えてまいりました。

紫陽花の花言葉は「一家団欒」。小さな花びらが寄り集まって咲いている紫陽花の姿にぴったりの花言葉です。家庭は私たちの土壌です。紫陽花のように榮養のあるしっかりとした土壌が、各家庭に合わせた色の花をこれからも咲かせてくれます。是非、初めての方もお子様がいらっしやる方も年に一度のお茶会に足をお運びください。



大雄寺の坐禅堂



昭和41年 禅堂



現在の禅堂



禅堂の内部

大雄寺の坐禅堂は禅宗伽藍の正規に則し本堂正面向かって左側に位置し、茅葺屋根の伽藍であります。建立年代は明らかになっておりませんが、江戸時代中期以降、幾度かの修理が行われ、近年では県の文化財指定を受けた翌年、昭和四十五年（前住職 倉澤良一代）に解体修理をおこなっています。堂内の中央には釈迦如来像が安置され、左右には八畳ずつの畳が敷かれており、上には坐禅に使用するクッションの坐蒲（ざふ）が置かれております。

坐禅堂は僧堂とも呼ばれ、その名の通り、本山など修行道場においては、坐禅だけでなくその一畳において食事や睡眠、着替えなどを行う場所です。文字通り、「起きて半畳、寝て一畳」の生活となります。さらに、「三黙道場の一つ」とされ、堂内での雑談を禁止し、静寂を保つ空間です。

現在、大雄寺の坐禅堂は多くの方が坐禅をできるように一般の参禅者にも開放しております。坐禅会の他、はじめて坐禅を組む個人の方や団体などを受け入れており、昨年も千人以上の方が大雄寺で坐禅を組みました。

禅宗の寺院でも坐禅堂のあるお寺は多くありません。そんな中、このような立派な坐禅堂で坐禅を組ませて頂くことは非常に有難いことであると思います。これからも日々手入れをしながら先人の残してくれた坐禅堂で参禅弁道させて頂くと思えます。

坐禅に興味のある方は、ぜひ大雄寺までご連絡ください。

●●●●● 坐禅って何？ ●●●●●

■ 坐禅とは？

坐禅は仏教で確立された修行法の一つであり、身心が統一した状態（禅定）に導く行法である。特に身体（調身）・呼吸（調息）・心（調心）を調えて坐することを基本とする。我が宗門（曹洞宗）では開祖である道元禅師により記された「普勸坐禅儀」や瑩山禅師の「坐禅用心記」などを手掛りに坐禅を行っています。

■ 坐禅はどれくらい坐るのですか？

坐禅は通常一炷（線香一本分）行います。時間にすると約 40 分です。大雄寺では初めての方や小さいお子様の場合は 20 分～ 30 分程度にする場合もございます。

■ 坐禅に必要な道具はありますか？

坐蒲（坐禅の時にお尻にあてるクッション）が必要になります。ない場合は座布団を半分に折って利用することもできます。

■ 足が痛くて組めないのですが、坐禅はできますか？

足を組む坐相が伝えられていますが、曹洞宗では椅子禅も勧めております。足が不自由な方も椅子を使用して坐禅ができます。

■ どんな服装で行うのですか？

締め付けのない、ゆったりとした服装で行います。また足は靴下や足袋は履かず裸足で行います。

■ 坐禅はつらいですか？

坐禅は我慢の時間ではなく、「安楽の法門」との言葉通り、身体を動かさなくても安定している状態で自然と呼吸がされ、心がくつろいでいる状態となります。何かに耐え忍んでいる時間ではなく、自分自身に落ち着いている時間をつくりだします。そのため、本来つらいものではありません。



禅 堂



坐 蒲

大雄寺での坐禅体験に関しては、本紙裏面またはホームページをご覧ください。電話やメールでもお問い合わせいただけます。

ホームページ： <http://www.daiouji.or.jp/>

メール： daiouji@helen.ocn.ne.jp

電話： 0287-54-0332

個人禅修行

個人禅修行では作務、坐禅、写経、読経の修行体験ができます。

坐禅の作法等の説明を行いますので、坐禅を初めてされる方も安心して参加できます。

また写経では半紙に経文を写し、読経後、袋に入れオリジナルの御守りとしてお持ち帰りいただけます。

スケジュール

13:30 上山・作務（境内清掃）

14:30 坐禅指導・坐禅

15:45 写経

16:25 読経

16:40 拝観

16:55 梵鐘

17:00 質疑など

17:15 下山



写経会

毎月第1火曜日 午後1時～

読経会

毎月第1火曜日 午前9時～

ご詠歌教室

毎月第2・第4水曜日 午後1時30分～

平成29年の主な行事

1月1日より	初詣
1月29日	節分会
2月24日	白旗不動尊大祭
3月17日～23日	春彼岸会
5月1日	牡丹開花
5月8日	花祭り
6月8日	大般若法会
8月13日～16日	盂蘭盆会
9月20日～26日	秋彼岸会
10月1日	大施食会
12月18日	観音祈願納経法会
12月31日	除夜法会

日曜坐禅会

毎月第2・第4日曜日

午前7時30分～

7:30 止静（坐禅開始）

8:15 作務（清掃）

8:30 下山または茶話会

お墓掃除スタッフ募集

大雄寺では遠方または高齢の為、墓地清掃が十分にできない方の為に山内墓地清掃を行っております。この度、依頼されているお檀家様の墓地清掃者を地元お檀家様に限り、募集します。

- 資格：●大雄寺檀家の方
●年齢 70歳未満の方 ●男女不問
- 人数：5名

- 内容：清掃依頼されている墓地の草とり、落ち葉とり、簡単な枝落としなど
- 場所：大雄寺山内墓地
- 期間：平成29年8月6日～8月10日 お盆前
平成29年9月12日～9月16日 秋彼岸前
平成30年3月10日～3月14日 春彼岸前
- 時間：午前7時～正午（5時間）
※途中休憩あり
- 賃金：時給1,000円～
- 申込期限：定員になり次第締め切ります。

問合せ先

黒羽山 大雄寺 ☎ 0287-54-0332

大雄寺ホームページ 詳細説明、一口法話、お知らせページ、掲示板など掲載

URL <http://www.daiouji.or.jp/>
E-mail ryoyu@daiouji.or.jp